

コスモエネルギーグループの CSR

わたしたちは、
地球と人間と社会の調和と共生を図り、
無限に広がる未来に向けて持続的发展をめざします。

調和と共生

- ▶ 地球環境との調和と共生
- ▶ エネルギーと社会の調和と共生
- ▶ 企業と社会の調和と共生

未来価値の創造

- ▶ 顧客第一の価値創造
- ▶ 個の多様な発想による価値創造
- ▶ 組織知の発揮による価値創造

経営理念

企業行動指針

- 第1章 安全で事故のない企業グループであり続けます
- 第2章 お客様の信頼と満足に応えます
- 第3章 人を大切にします
- 第4章 地球環境を大切にします
- 第5章 社会とのコミュニケーションを大切にします
- 第6章 誠実な企業グループであり続けます

CSR活動方針 2013-2017 ココロと安全の「満タン活動」

活動テーマ

- 「安全」と「誠実」(信頼回復)
- 「共有」と「自発性」(水平展開と定着)

2017年度のゴールビジョン

信頼に応え、継続して社会に貢献できる
コスモエネルギーグループになる

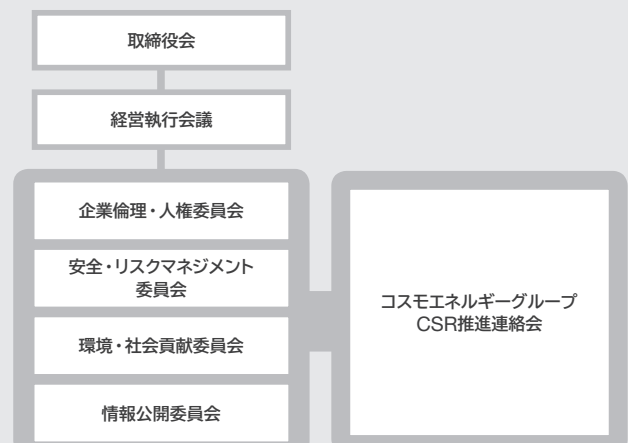
CSR活動方針の5つの重点項目に基づき、各委員会が活動テーマを定め、CSR経営の推進に取り組んでいます。

- 1 安全管理施策の徹底
- 2 誠実な業務遂行
- 3 人権／人事施策の充実
- 4 環境対応策の推進
- 5 社会とのコミュニケーション活動の推進

内部統制体制

コスモエネルギーグループでは、経営理念および企業行動指針を実践し職務を適正かつ効率的に執行するため、「内部統制システムに関する基本方針」に基づき、当社およびグループ各社の取締役・社員の職務執行、リスクマネジメント・内部監査、監査等委員会による監査の体制を整備・運用しています。また、内部統制を統括する組織として担当取締役を委員長とする4つの委員会を設置し、CSR活動の実績・評価を行い、重要なものを経営執行会議にて審議、取締役会に報告しています。さらに、これらの内容はコスモエネルギーグループCSR推進連絡会において、グループ会社と情報共有することによりグループ会社全体の統制を図っています。

コスモエネルギーホールディングスの委員会体制図



コスモエネルギーグループは経営理念を実現するために、「コスモエネルギーグループ企業行動指針」に基づいて、連結中期経営計画とCSR活動方針を表裏一体とするCSR経営を進めるとともに、社員一人ひとりが誠実にCSR活動に取り組んでいます。

CSR活動方針の取り組み

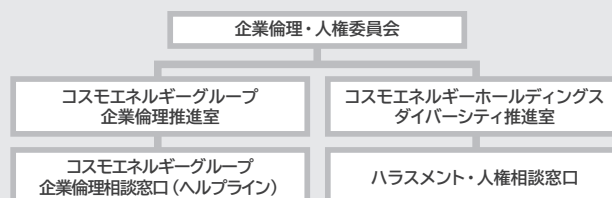
取り組み項目	活動項目	記載ページ
安全への取り組み ～安定供給の使命達成に向けて～	● コスモエネルギーホールディングスと中核3事業会社の各委員会の体制説明 ● 安全・リスクマネジメント委員会の目的と活動報告、実績評価 ● グループ全体のリスク対応 ● 安全活動報告	P.37-P.38 
顧客 ～カーライフソリューションの実現へ向けて～	● 顧客の創造 ● 究極のカーライフ商品 ● お客様との関係強化 ● “ココロも満タンに” 宣言	P.39-P.40 
人材 ～価値創造の源泉～	● 人事制度と評価制度 ● 人材育成とグローバル人材 ● ダイバーシティへの取り組み ● ワークライフバランスの推進 ● 長時間労働削減への取り組み	P.41-P.42 
環境 ～「ずっと地球で暮らそう。」の実現に向けて～	● 環境・社会貢献委員会の活動報告、実績評価 ● 製油所の省エネルギー活動 ● 再生可能エネルギーへの取り組み ● 海外の環境対策・環境保全	P.43-P.44 
社会 ～選ばれるエネルギー企業であるために～	● 地震BCP（事業継続計画）の改定 ● 本社のBCP対応設備 ● 関西圏の臨時危機対策訓練の実施 ● 国連グローバル・コンパクトへの参加 ● コスモ石油エコカード基金 ● 「コスモ アースコンシャス アクト」クリーン・キャンペーン ● 社会貢献活動	P.45-P.46 

企業倫理推進体制

当社は、コスモエネルギーグループ企業行動指針の推進・実施・確認を行う「企業倫理・人権委員会」、その運営を補佐する「コスモエネルギーグループ企業倫理推進室」を設置しています。また法令違反および倫理上の問題を匿名で相談・通報できる「コスモエネルギーグループ企業倫理相談窓口（ヘルプライン）」を企業倫理推進室内および社外の弁護士事務所に設置しています。さらに、ダイバーシティ推進室内には、「ハラスメント・人権相談窓口」を設けています。相談・通報の内容と対応については、「監査等委員会」に報告し、CSR活動の継続的な改善を図っています。なお、2015年度の重大なコンプライアンス違反は0件※でした。

※重大な製品・サービスの提供および使用に関する法律や規制の違反、重大な環境法規制に関する違反を含みます。

企業倫理推進体制図



ヘルプラインに寄せられた相談件数



CSRについて

安全への取り組み ～安定供給の使命達成に向けて～

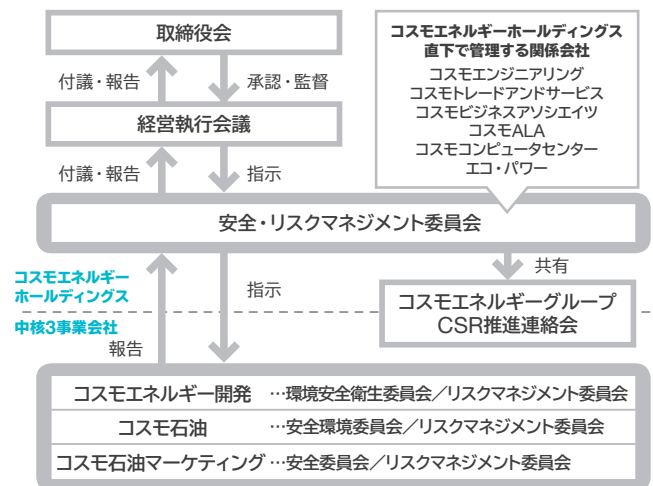
コスモエネルギーグループの安全管理体制

コスモエネルギーグループでは、CSR活動方針の最重点項目の一つとして「安全管理施策の徹底」を掲げています。エネルギーの安定供給への強い使命感のもと連結中期安全計画（2013年度～2017年度）では、安全・リスクマネジメント委員会が、グループ全体の事業活動における安全管理活動を推進し、各事業所および各部門で事故や労働災害の撲滅をめざし、安全操業・安定供給を実現していきます。

コスモエネルギーホールディングスと中核3事業会社の各委員会の体制説明

コスモエネルギーグループでは、「安全・リスクマネジメント委員会」を年2回開催し、グループ全体の安全方針の審議や安全活動の進捗を確認する等、安全管理の充実を図っています。

中核3事業会社においては、それぞれの事業内容や機能に応じて、コスモエネルギー開発が「環境安全衛生委員会」、コスモ石油が「安全環境委員会」、コスモ石油マーケティングが「安全委員会」を設置し、安全施策の立案や安全活動の進捗管理を実施。安全管理活動の確認・改善を行っています。



安全・リスクマネジメント委員会の目的と活動報告、実績評価

コスモエネルギーグループでは、社会の皆様から信頼され、安心していただけるよう、安全・リスクマネジメント委員会において、グループ全体の事業活動における安全確保および将来リスク低減を図るために、安全管理およびリスクマネジメント活動の取り組みを推進しています。

重点項目	テーマ	主な活動施策・目標	2015年度実績	評価※	2016年度方針
安全管理施策の徹底	安全管理活動の推進	労災・事故発生件数の削減	・製油所での大規模事故発生件数は0件 ・休業労災（目標3件、実績4件） ・計画外停止率（目標0.8%、実績0.9%）	C	“誠実に守るべきことを守る「安全文化」の浸透”を踏襲する 休業労災3件以下、計画外停止率0.8%以下とする
	グループ全体のリスクマネジメントの強化	地震BCPの改善	・課題を認識し、方向性を確認 ・地震発生時のBCP権限委譲を変更	A	コスモエネルギーホールディングス・コスモ石油・コスモ石油マーケティング合同訓練を東京で行い、臨時危機対策本部訓練を関西で行う等訓練を強化する
		全社リスクへの対応	・保険付保基準を制定し運用開始 ・海外駐在者のためのアシスタントサービス契約を締結	A	主要な全社リスクについて、取り組み方針を策定しリスクを軽減する

※A：目標達成、B：一部達成、C：未達成

グループ全体のリスク対応

コスモエネルギーグループでは、企業経営に悪影響を与えるリスクを把握し、リスクがもたらす損失の極小化を図る取り組みを進めています。

2014年度にリスク評価制度の見直しを行い7つの課題を掲げ、2015年度に検討や対策を実施し、一通りの対応が終了しました。今後も継続していくものや更なる対応が必要となる課題については、引き続き、対策を講じていきます。

7つの課題

- ① リスクマネジメントに関する方針
- ② 「リスク評価」の手法
リスクマトリクスの仕分け、牽制機能、優先リスクの選定、PDCAサイクルの運用
- ③ 危機管理規程類の整備
- ④ リスクマネジメント教育や研修の実施
- ⑤ 国内外での危機対応の体制整備
- ⑥ 地震以外のBCP（事業継続計画）の策定
- ⑦ グループ会社へのリスクマネジメントの展開

安全活動報告

コスモエネルギーグループでは、全グループの安全目標として「誠実に守るべきことを守る安全文化の浸透」を掲げ、安全活動に取り組んでいます。

2015年度の労働災害発生件数は合計41件（休業労災15件、不休業労災26件）で、2014年度の90件（休業労災24件、不休業労災66件）から、大幅に減少しました。

今後も労働災害の削減に継続的に取り組みます。

「コスモ石油 安全の日」3月11日に制定

コスモ石油では、10月2日、千葉製油所に設置した安全モニュメントの完工式を開催しました。この安全モニュメントは2011年3月の東日本大震災時に起きたLPG火災爆発事故の風化防止と一人ひとりの安全意識の醸成を目的として、事故概要を記したパネル、球形タンクの被災物（支柱、鋼板）、安全のシンボルである緑十字と安全の誓いを刻み込んだ約4mの安全の塔から構成されています。

また、3月11日を「コスモ石油 安全の日」と定めており、設置した安全モニュメントの前で安全行事を行いました。安全行事では、「安全の誓い」を唱和し、安全で事故のない千葉製油所であり続けることを誓いました。

安全啓発研修

グループ全体でもこの記憶を風化させることなく教訓として捉え、安全を第一に考える「安全文化」の浸透を図るべく、火災・爆発事故の内容とその後の対応をまとめた安全教育用DVDを制作し、安全啓発研修を展開しています。職場の特性や製造現場との関与度を勘案し、研修内容を3段階に分けました。

視聴後は、事故の教訓を踏まえ、自身の仕事の安全に置き換えて考える内容としています。

2015年度の労働災害発生件数

主要会社グループ	休業労災	不休業労災	合計
コスモエネルギーホールディングス※1	0	2	2
コスモ石油※2	6	18	24
コスモ石油マーケティング※3	5	1	6
コスモエネルギー開発※4	4	5	9
合計	15	26	41

※1 コスモエネルギーホールディングスの他、傘下の関係会社13社を含む

※2 コスモ石油の他、傘下の関係会社11社を含む

※3 コスモ石油マーケティングの他、傘下の関係会社11社を含む

※4 2015年1月～12月の実績、コスモエネルギー開発の他、6社を含む

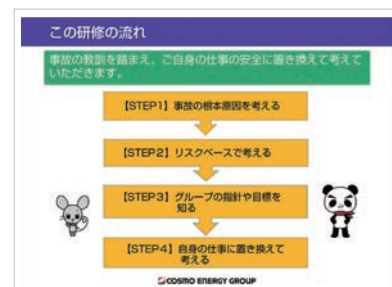


モニュメント設置行事の様子



LPG火災爆発事故
風化防止DVD視聴の
様子

目的	・安全を第一に考える「安全文化」を醸成すること ・現在の仕事に潜むリスクを想起し、安全第一の思想を根付かせること
対象	・コスモエネルギーホールディングスおよび3事業会社 ・グループ会社のうち、石油精製の現場を持つ会社
内容	・千葉製油所火災、爆発事故の内容とその後の対応をまとめたビデオの視聴 ・根本原因を把握し、自身の仕事を見直す気づきを得るセッション
手法	・レベル1 DVD視聴（約45分）＋講義＋Grディスカッション＋レポート作成 ・レベル2 DVD視聴（約40分）＋アンケート ・レベル3 eラーニングシステムによるDVD視聴（約20分）＋学習 計90分 計50分 計30分



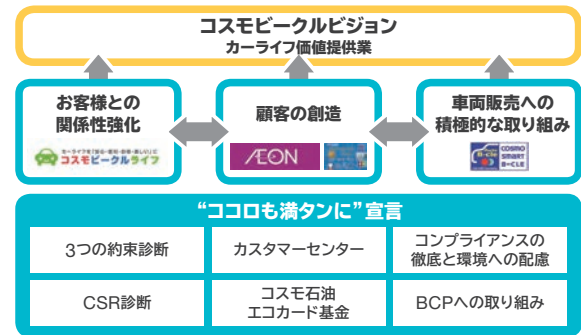
教材の一例

CSRについて

顧客 ～カーライフソリューションの実現に向けて～

コスモビークルビジョン

自動車の燃料油需要が減少する中、私たちは「石油流通業」から「カーライフ価値提供業」への変革を進めています。36兆円と言われる巨大なカーライフマーケットの市場全体の需要を総合的に獲得する。これが「コスモビークルビジョン」であり、徹底したお客様目線でのカーライフソリューションを実現します。



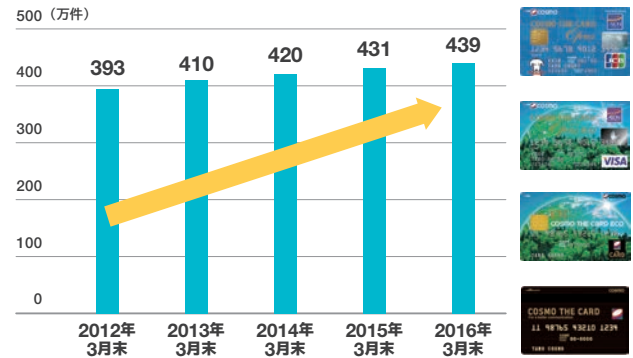
顧客の創造

コスモ・ザ・カード — 会員数439万件 —

お客様との関係を築く上で重要な役割を果たしているのが、サービスステーション（以下SS）の会員カード「コスモ・ザ・カード」です。コスモ・ザ・カード会員数は順調に増え続けています。

2014年7月よりコスモ・ザ・カード・オーパス会員に対して、流通大手イオンでのショッピングご利用でお得となる特典を追加したことに加え、電子マネーWAONでの支払いができるSSを増やし、イオンとの相互送客の強化をしています。

コスモ・ザ・カード会員数の推移



究極のカーライフ商品

コスモスマートビークル — 累計契約台数2万7千台 —

コスモ石油では、国内の全メーカー・全車種をお得な条件でお届けする個人向けカーリース「コスモスマートビークル」を積極的に販売、展開しています。「コスモスマートビークル」は、燃料油割引をセットにした当社のみでご提供できる仕組み・サービスであり、ビジネスモデル特許を取得しています。また、2015年度より車選びから、保険、メンテナンス、車検、車の売却までワンストップでサービスを提供する「ビークルショップ」を展開しています。

くるまの相談窓口 B-cle Shop

2016年度
本格展開予定

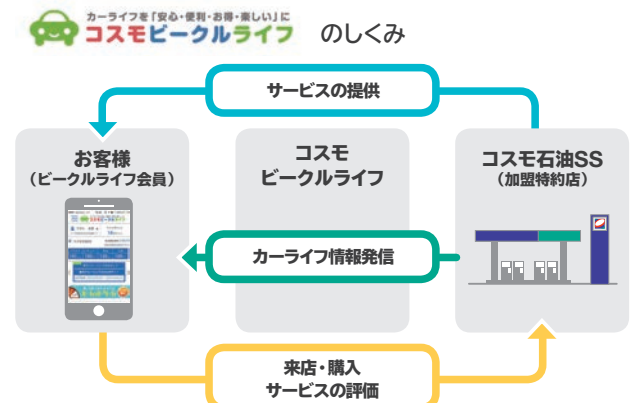
- カーライフコンシェルジュが無料でくるま選びをサポート
- 国内全メーカー・全車種を取扱い
- 全国の提携ディーラーから、最もお得なくるまを探せる
- アフターサービスも万全

ショップ外観（イメージ）

お客様との関係強化

コスモビークルライフ — 会員数60万件突破 —

お客様の快適なカーライフをサポートする「コスモビークルライフ」というサービスを提供しています。インターネットやスマートフォンアプリを通じて、燃料油やカーケア商品に関するクーポン等の提供、キャッシュバックに利用できるポイントの付与を行うことでお客様との関係性の強化を図っています。また、お客様に弊社サービスを評価していただく「マイコスモプロジェクト」機能を導入し、顧客サービス向上に活用しています。



“ココロも満タンに” 宣言

定期的な店頭チェック ～3つの約束診断～

コスモ石油のSSでは、お客様の“ココロも満タンに”を実現するために、「心地良さ」「安心感」「信頼感」の3つを「お客様との約束」（ブランドプロミス）として取り組んでいます。この「3つの約束」を全てのSSで守り続けることが、コスモのブランド醸成に繋がり、選ばれる存在になると確信しています。取り組みの確認のため、年に3回外部の覆面調査員による店頭チェックを行い、サービス向上に努めています。

コンプライアンスの徹底と環境への配慮

コスモブランドがお客様からさらなる支持を得ていくために、コスモ石油のSSではコンプライアンスの徹底と環境への配慮等CSR活動を推進しています。CSR診断として、個人情報保護（PP）調査と環境・安全に関するSS設備等の管理状況を把握する環境管理（EM）調査を毎年実施し、問題点等の把握と改善に努めています。2015年度は1,190SSに調査員が訪問して調査をし、1,584SSが自己診断を行いました。

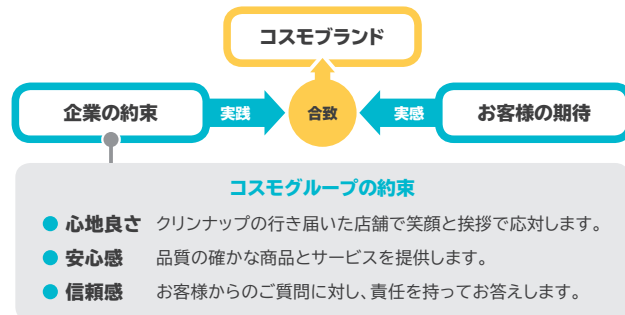
お客様サポート体制の充実

お客様の声を頂戴するコールセンター「コスモ石油カスタマーセンター」を開設し24時間年中無休で対応しています。

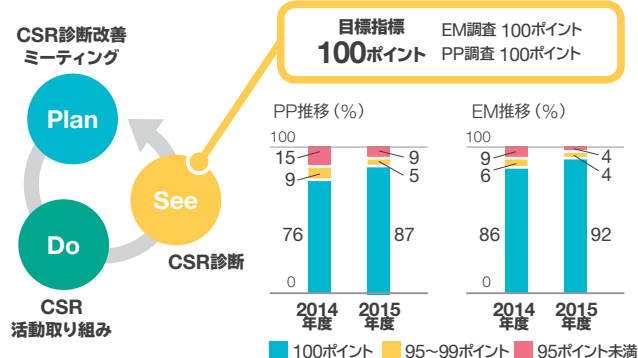
2015年度は全体で10,146件の問合せ・ご指摘をいただきました。問合せ内容では、カード関連が半数以上を占めました。ご指摘は全体で595件、内558件がSSに関連するご指摘でした。一方、お礼・お褒めの声は136件もお寄せいただきました。お客様からの声を真摯に受け止め、ご満足いただけるSS運営につなげています。

カーライフを支える人創り

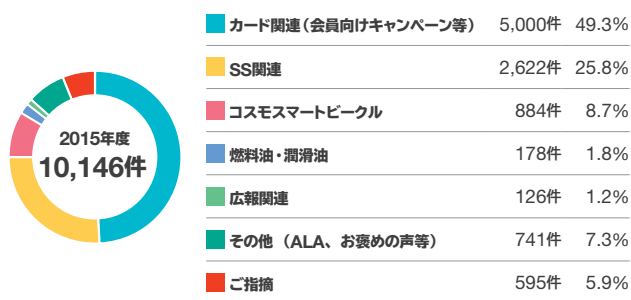
我々のビジョンを実現する中心は、お客様と接するSSのスタッフです。研修制度を通じて、カーライフをお任せいただける人創りを行っています。2015年度もビークルビジョン施策に合致した研修を展開し、延べ4,000名のスタッフが受講いたしました。資格取得研修に関しては、全国を上回る非常に高い合格率で、二級ガソリン自動車整備士が39名（合格率98%）、三級自動車ガソリン・エンジン整備士、三級自動車シャシ整備士は87名（合格率100%）が合格し、自動車整備士としてお客様のカーライフを支えています。



SSでのCSRの取り組み



問合せ・ご指摘件数比率



カーライフコンシェルジュ研修	お客様に最適なカーライフを提案できる人材の教育 (認定制度)
CIS・EIS研修	顧客感動満足 (CIS) と従業員感動満足 (EIS) を実現し、業績向上につなげます。
資格取得	二級ガソリン自動車整備技術コース 三級自動車ガソリンエンジン・シャシ整備技術コース 危険物 (乙種第四類) 取扱者 資格取得コース

その他にも技術研修、技術・知識サポート等の研修を実施しています。

CSRについて

人材 ～価値創造の源泉～

価値創造に向けた人事制度と人材の育成

コスモエネルギーグループでは、「人材」を価値創造の源泉と考えます。

経営環境の変化に前向きにスピード感を持つ人材を育成するとともに、ダイバーシティ（多様性）を尊重し、様々なバックグラウンドを持つ社員がそれを活かして活躍できる職場づくりに取り組んでいます。

コスモ石油社員数※（2016年3月末日現在）

		男性	女性	合計
コスモ石油 （出向者含む）	組員	1,410名	271名	1,681名
	管理職	639名	8名	647名
	シニア社員	311名	15名	326名
	小計	2,360名	294名	2,654名

※主にコスモエネルギーホールディングス、中核3事業核社およびその他出向社員

平均勤続年数 **22.4年**

うち、女性社員の平均勤続年数 **19.2年**

※シニア社員含む

人事制度と評価制度

2015年4月より「健全な競争意欲と高い収益意識を持って、年齢・性別・職種に関わらず能力を最大限に発揮することで人材と組織を活性化し、会社と社員が共に成長していく」ことを目的に人事制度の大幅改定を実施しました。全社員を対象とした公平かつ透明性のある評価制度としており、自律的な社員の意識向上とラインマネージャーの評価研修を実施し、適切なフィードバックに努めています。

主な改定内容

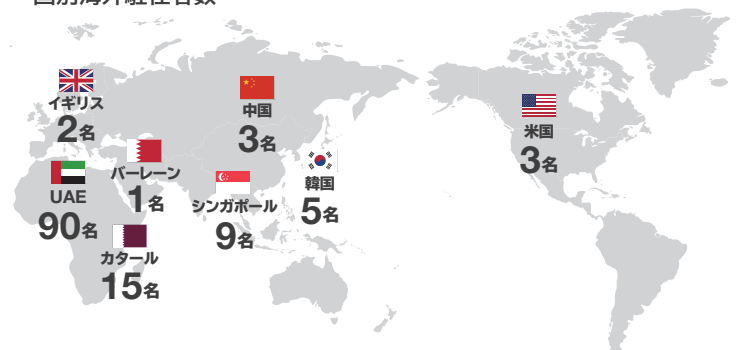
目的	具体的施策
あらゆる社員に チャンスを提供するために	① コース制を廃止 ② 管理職に対しては職責に応じて 報酬が決まる役割等級制度の導入 ③ 年功要素を排した昇格審査の実施
社員の競争意欲・収益意識の 向上を促進するために	① 改革や変革に挑んだ社員が高く 評価される制度の導入 ② メリハリのある人事評価の実施 ③ 業績連動型賞与の導入

人材育成とグローバル人材

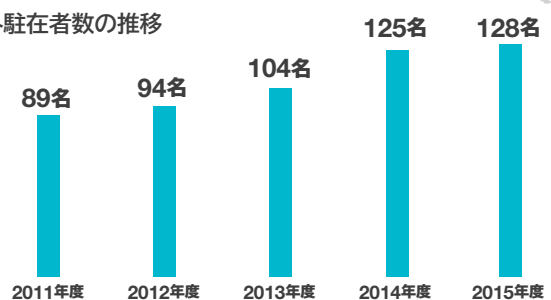
新人事制度の中で求める人物像を「向上心と自己変革意欲を持ったプロフェッショナル人材」として設定しました。従来の一律・年功的な人材マネジメントから脱却し、目的に沿った人材を選抜して育成をめざしています。ビジネスにおいて必要とされる知識・スキルを昇格審査項目とし社員の自己啓発を促進し、マネージャーに対しては部下育成レベルを向上させる研修を実施するとともに、今後の活躍を後押しする女性社員対象の研修も充実させていきます。

また、コスモエネルギーグループ社員は、世界8カ国、128名が海外に駐在しています。「グローバルな垂直型一貫総合エネルギー企業」をめざすコスモエネルギーグループにとって、多様な経験・スキルを持ったグローバル人材の育成は急務であるため、若手・中堅社員を積極的に海外へ派遣するとともに、海外の大学・国内の国際系大学への指名留学（過去5年間で6名）を実施しています。

国別海外駐在者数



海外駐在者数の推移



※ 駐在者数は、コスモ石油出向者とコスモエンジニアリング、コスモトレードアンドサービス、コスモエネルギー開発のプロパー社員を足したものです。
（2016年3月31日現在）

ダイバーシティへの取り組み

コスモエネルギーグループでは、多様性の実現に積極的に取り組んでいます。様々なバックグラウンドを持つ社員が、意欲的に働ける職場を実現していくことで、高い生産性を実現し成長を続けていく企業をめざします。

その実現を推進するために、2015年6月にダイバーシティ推進室を設置し、多様性のある人材の活用と育成、人権施策を推進しています。特に女性活躍推進に注力しており、2020年度に女性管理職比率5%（2015年度末現在1.2%）の達成を目標として行動計画を策定しています。

ワークライフバランスの推進

コスモエネルギーグループでは、社員が心身ともに充実した状態で仕事に取り組めるとともに、ライフイベントの際にも仕事と両立できるよう、様々な制度を導入しています。

出産・育児にあたる社員については、法定以上の育児休職制度に加え、短時間勤務制度、在宅勤務制度などが利用できる他、記念日休暇（結婚一年目、子どもの1歳の誕生日）などの、特別有給休暇の取得も促進しています。

また、育児・介護事由での勤務地限定選択制度、育児・介護事由でやむを得ず退職した社員の再雇用制度や、配偶者の転勤事由による休職制度といった、家族や家庭の状況が変わった際にも、働き続けることができる体制を整えました。

長時間労働削減への取り組み

社員の健康を守り、仕事と生活の調和を図ることを目的として、2014年度より「生産性の向上による、労働時間の適正化」に取り組んでいます。

2015年度も、年間の総労働時間1,900時間を指標として、夜型から朝型勤務への転換、リフレッシュデーの推進、20時消灯、管理職の人事評価に部下の労働時間実績・改善を反映するなど、様々な施策に取り組みました。結果は、前年度からの微減に留まりましたが、計画的に有給休暇を取得するなどの意識が定着してきています。

2016年度は、この取り組みを新たに「働き方改革」の一環として、各部署にて目標総労働時間を定めた上で、目標を達成するため業務のたな卸し、会議の見直し、有給休暇の計画的取得などの各種具体策を実行していきます。

■多様性の尊重

ダイバーシティの推進および公正な雇用の継続をテーマとして、「障がい者雇用率の維持向上」を目標に取り組んでいます。2015年度積算での雇用率は2.06%となり、法定雇用率の2%を上回りました。

また、障がい者の方の職場を広げるため、2015年度は4名の知的障がいのある学生対象のインターンシップを実施するなど、職場開発や雇用促進に努めています。

■人権の尊重

コスモエネルギーグループでは、一人ひとりの人権を尊重するとともに、ハラスメントを禁止し、明るく働きやすい職場づくりを行っています。特にハラスメントについては、「ハラスメント・人権相談窓口」を設け、社員だけでなく派遣社員、アルバイトなどの方々からの相談を受け職場改善に取り組んでいます。

育児休職取得者数

	2013年度	2014年度	2015年度
男性	4名	2名	2名
女性	17名	16名	24名

※ 年度をまたいで取得している場合、各年度で取得者が重複しています。

短時間勤務制度利用者数

	2013年度	2014年度	2015年度
育児事由	17名	21名	22名
介護事由	0名	1名	1名

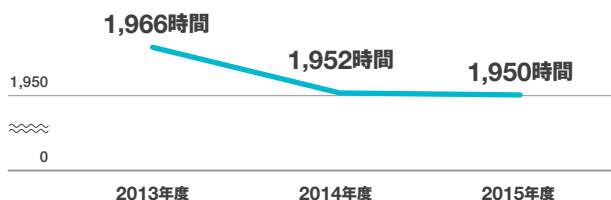
※ 年度をまたいで取得している場合、各年度で取得者が重複しています。



グループ社員のうち、約2,700人が所属するコスモ石油では、2005年4月より、5期連続で「一般事業主行動計画（次世代育成支援推進法）」の認定を受けています。

総労働時間の推移

2,000（時間）



月間時間外労働時間の平均と年間有給休暇の平均取得日数

	2013年度	2014年度	2015年度
時間外月平均	23.2時間	22.3時間	22.5時間
有休取得日数	17.4日	17.7日	18.4日

※ 勤続年数に応じ、0年：15日、1年：17日、2年：19日、3年以上：21日を付与しています。

CSRについて

環境 ～「ずっと地球で暮らそう。」の実現に向けて～

コスモエネルギーグループの環境管理体制

コスモエネルギーグループでは、CSR活動方針の重点項目の一つとして「環境対応策の推進」を掲げています。「連結中期環境計画（2013年度～2017年度）」では、「事業継続を踏まえた地球温暖化への戦略的対応」「環境負荷の低減」「環境貢献活動の推進」の3項目をテーマに掲げ、コスモエネルギーグループの社会へのメッセージスローガン「ずっと地球で暮らそう。」を実現すべく活動しています。

環境・社会貢献委員会の活動報告、実績評価

コスモエネルギーグループでは、環境負荷の影響が大きい事業所を中心に、各製油所を含む8事業所でISO14001認証を取得しています。内部監査を実施するとともに外部審査も受け、法令遵守はもちろんのこと、大気・水への環境負荷低減への取り組みを実施しているかの確認をしています。

また、グループ会社全体の省資源・省エネ、水使用量および廃棄物の削減等については「環境・社会貢献委員会」が、連結中期環境計画において、立案・実績報告・評価などを実施し、環境に配慮した活動の取り組みを進めています。

重点項目	テーマ	主な活動施策・目標	2015年度実績	評価※	2016年度方針
環境対応策の推進	地球温暖化防止への対応	2017年度に85.3万t-CO ₂ の削減（2010年度比）	93.7万t-CO ₂ の削減（2010年度比） （内訳）製造部門運営効率化 ▲81.3万t-CO ₂ 風力発電事業 ▲5.9万t-CO ₂ バイオガソリン ▲6.5万t-CO ₂	A	2017年度達成に向け、取り組みを継続
	環境負荷の低減	環境データ収集の見直し	一般廃棄物、水使用量の実績の把握開始	A	環境負荷低減に向けた情報発信を実施
	環境・社会貢献活動の推進	エコカード基金活動の推進	会員減少対策を実施	B	会員減少に歯止めをかける策を行い、歩留まりが見られたため、現対策を継続して実施

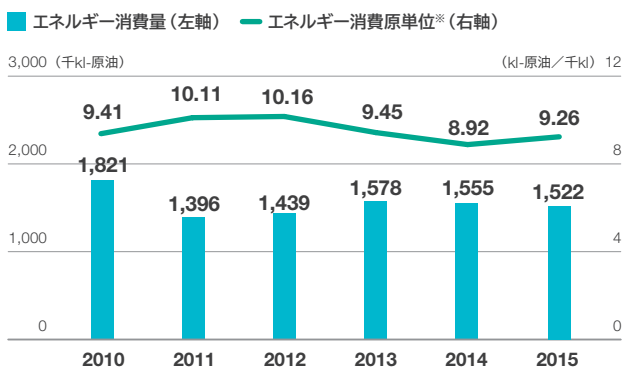
※A：目標達成、B：一部達成、C：未達成

製油所の省エネルギー活動

コスモエネルギーグループのCO₂排出量の7割以上を占める精製部門では、ハード面（高効率機器の導入）、ソフト面（運転効率の改善）の両面から省エネに努めています。

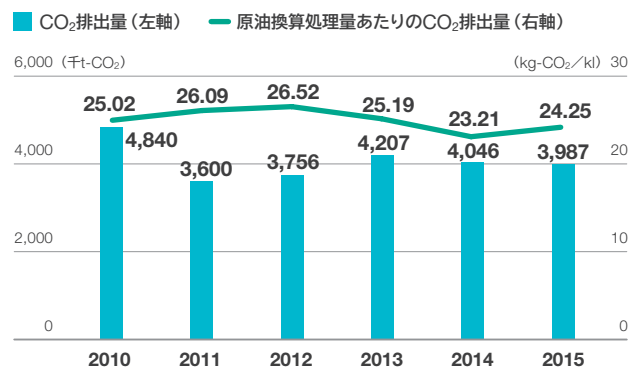
2015年度は四日市と堺製油所の定期整備による装置停止の影響で、エネルギー消費量とCO₂排出量の総量は減少しましたが、原単位の数値は悪化しました。

エネルギー消費量とエネルギー消費原単位の推移



※製油所の総エネルギー消費量を精製技術の複雑度を考慮した原油換算処理量で割った値で、単位は、kWh-原油/kWhで表します。総エネルギー消費量は、熱や電気などの各種エネルギーの使用量を原油換算し、単位はkWh-原油です。

CO₂排出量と原油換算処理量あたりのCO₂排出量の推移



※2014年度より坂出製油所が物流基地となったため、2013年度までは4製油所、2014年度からは3製油所を集計しています。
※図に示したほかに、触媒再生塔から一酸化二窒素(N₂O)が17千t-CO₂eq発生しています（2015年度）。

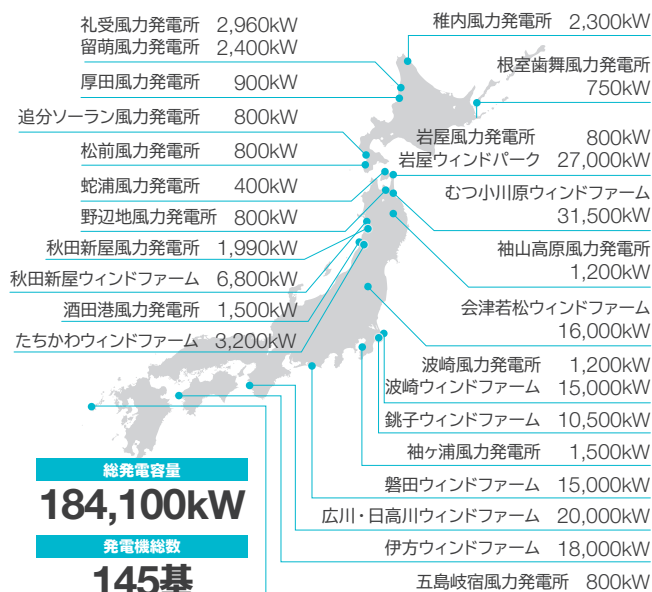
再生可能エネルギーへの取り組み

コスモエネルギーグループでは、風力発電・太陽光発電事業に積極的に取り組み、クリーンなエネルギーの供給に努めています。2015年は会津若松ウィンドファーム（16,000kW）、秋田新屋風力発電所（1,990kW）の運転を開始しています。これにより、風力発電機145基（22地域）、総計343,143MWhの発電を行い、CO₂に換算すると、198,680t-CO₂*のCO₂排出量の削減効果となりました。

また、昭和シェル石油および日本政策投資銀行と共同設立したCSDソーラー合同会社においては、2016年6月に大三島太陽光発電所が営業運転を開始しました。これにより、2014年度から計画を進めてきた全国8拠点すべての太陽光発電所の建設（発電容量24,000kW）が完了し、順調に稼働を継続しています。

※環境省による「平成26年度の電気事業者ごとの実排出係数・調整後排出係数等」の代替値0.579 (t-CO₂/MWh) を用いて算定。

エコ・パワー風力発電所一覧



海外の環境対策・環境保全

コスモエネルギーグループは、安定供給への強い使命感のもと、石油開発を事業の根幹としながら、原油採掘の現場においても環境対策・保全活動に真摯に取り組むことで地球規模での環境コミュニケーションを図り、持続可能な社会の実現をめざしています。

ゼロフレアプロジェクト

石油開発事業は、探鉱・開発・生産の各段階において、環境に影響を及ぼすリスクをはらんでいます。環境保全活動を重要課題と位置付け、環境への負荷をできる限り低減する取り組みを推進しています。

コスモエネルギーホールディングスのグループ会社であるアブダビ石油やカタール石油開発の油田においては、原油生産に伴って発生する随伴ガスの全量を回収して地下の油層に圧入することにより、ゼロフレア化を実現しています。これにより、大気汚染の防止とCO₂排出の削減にも寄与しています。現在は、UAEのアブダビ（ムバラス島、西ムバラス陸

上集油基地、海上集油基地）とカタール（海上集油基地）の2カ国4拠点でゼロフレアリングを実現しており、さらに挑戦を続けていきます。

ムバラス島 フレア



ゼロフレア操作前



ゼロフレア操作後

産油国での環境保護活動

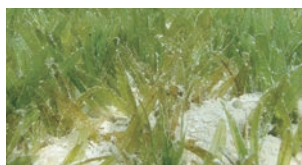
原油生産の現場であるムバラス島では、マングローブの植林をはじめとする緑化や海洋でのサンゴの保護、海草の繁殖、希少種であるみさご（オスプレイ）の保護など幅広い環境保護活動に取り組んでいます。



植林したマングローブ



サンゴの養殖



海草の繁殖



みさご（オスプレイ）

CSRIについて

社会 ～選ばれるエネルギー企業であるために～

エネルギーインフラを支える企業として

石油を中心としたエネルギーインフラを支える企業としての私たちの使命と役割は、とても大きなものです。エネルギーの安定供給を堅守する体制を構築すること、経営理念である地球との共生をベースに、環境に配慮した取り組みや活動を継続的かつ積極的に取り組んでいくことが私たちの責務であると考えています。

地震BCP（事業継続計画）の改定

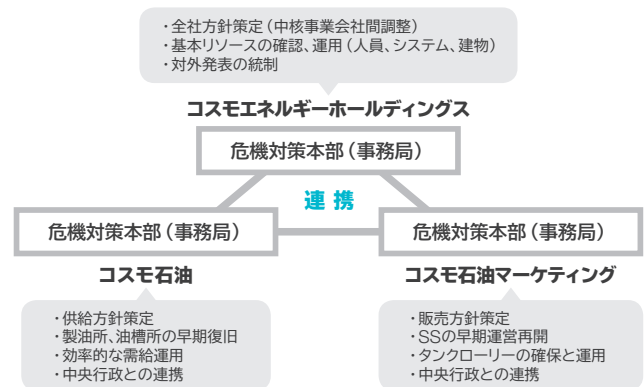
持株会社体制への移行に伴い地震BCPのマニュアルを改定し、コスモエネルギーホールディングス、コスモ石油、コスモ石油マーケティングの各社にて危機対策本部を設置、BCPを発動する体制に変更しました。また、首都直下地震等によりコスモエネルギーホールディングス本社に危機対策本部が設置できない場合、コスモ石油堺製油所、コスモ石油マーケティング大阪支店にて設置される臨時危機対策本部のマニュアルを整備しました。

コスモエネルギーグループの地震BCPの概要

ポイント	・BCP骨子と各部門BCPマニュアルの災害想定を統一する ・災害想定に基づき、各社・各部門にて被害想定を行う ・災害想定、被害想定を基に、当社としての業務継続目標を明確にする ・各社・各部門の業務フローを時系列に分け、その間の業務内容を明確にし、部門間の連携を強化する
基本方針	①「人命尊重」「二次災害防止」「安定供給」 ②系列サプライチェーンBCP（製油所・油槽所での出荷、SS運営まで）の早期復旧 ③石油備蓄法に基づく「災害時石油供給連携計画※」との整合性
想定ケース	首都直下地震および南海トラフ巨大地震
業務継続目標	石油製品の安定供給を中断させない、あるいは可能な限り短時間で再開できるよう、製油所出荷からSS運営の継続に努める。
事前対応（防災・減災）	・地震BCP訓練の定期的な実施 ・地震、津波へのハード対策（装置の安全停止や、側方流動対策等）

※大規模災害発生時に、石油精製元売が連携して共同作業体制の構築、設備の共同利用、輸送に係る協力等の共同オペレーションを実施し、石油供給を行う計画。

BCPの組織体制



本社のBCP対応設備

コスモエネルギーグループでは、各事業所に衛星電話およびMCA無線を設置しており、固定電話や携帯電話が使用できない状況でも連絡が取れる体制になっています。また、本社については、非常用発電機が設置されており、危機対策本部を設営する大会議室には常用と非常用の電源切替盤（BCP対応盤）、非常用電源使用時に使用できるコンセント（BCP対応コンセント）などが設置されています。

関西圏の臨時危機対策訓練の実施

首都直下地震が発生し、本社での危機対策本部設置が困難となった場合においても、事業継続させるため、関西圏で臨時危機対策本部を設置する準備・対応・取り組みを行っています。

その臨時危機対策本部訓練をコスモ石油堺製油所およびコスモ石油マーケティング大阪支店にて、2015年11月16日に実施しました。

今回の訓練で抽出された課題を解決した上で、改善点をマニュアルに反映すると共に、今後もリスクマネジメントの一環として3社が一体となってBCP訓練を実施し、大規模災害時には人命尊重を最優先に二次災害防止、石油製品の安定供給に取り組んでまいります。



臨時危機対策訓練の様子

国連グローバル・コンパクトへの参加

コスモエネルギーグループは、国連が提唱するグローバル・コンパクトに2006年から参加しており、人権・労働・環境・腐敗防止にかかわる10原則を支持することによって、国際的な視点を採り入れ、CSR経営を推進する企業姿勢を社会に対しコミットし、CSR活動のさらなる向上をめざしています。

コスモ石油エコカード基金

コスモエネルギーグループは、2002年より「地球環境との調和と共生」を経営理念のひとつに掲げ、環境問題に取り組んでいます。コスモ石油エコカード基金は、エコカード会員の皆様から毎年お預かりする500円の寄付金とコスモエネルギーグループの売上の一部をもとに、環境活動に取り組むNPOなどを支援しています。また、エコカード会員の皆様に対し、寄付金の成果を実感することができるエコツアーも実施し、環境問題を体感いただく取り組みも実施しています。

国連グローバル・コンパクトの10原則

人 権	原則 1	人権擁護の支持と尊重
	原則 2	人権侵害への非加担
労 働	原則 3	結社の自由と団体交渉権の承認
	原則 4	強制労働の排除
	原則 5	児童労働の実効的な廃止
	原則 6	雇用と職業の差別撤廃
環 境	原則 7	環境問題の予防的アプローチ
	原則 8	環境に対する責任のイニシアティブ
	原則 9	環境にやさしい技術の開発と普及
腐敗防止	原則 10	強要や贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗防止の取組み



コスモ・ザ・カード「エコ」



詳細情報

コスモ石油エコカード基金活動報告書2016

<http://ceh.cosmo-oil.co.jp/kankyo/eco/report.html>

「コスモ アースコンシャス アクト」クリーン・キャンペーン

コスモエネルギーグループは、2001年より開始した地球環境の保護と保全を呼びかけていく活動「コスモ アースコンシャス アクト」の一環として、海・山・川などで自然と親しみながら清掃を行う「クリーン・キャンペーン」を全国で展開しています。15年間で、延べ606カ所を清掃し、参加者232,189名の方々にご協力いただき、総量6,498,417リットルのごみを回収しました。毎年夏には「クリーン・キャンペーン in Mt.FUJI」を実施しています。2015年度は富士山の清掃とエコトレッキングを行い、総勢160名で8,415リットルのごみを回収しました。



キャンペーン開催の様子

詳細情報

コスモ アースコンシャス アクト
活動スケジュール・報告

公式サイト <http://www.tfm.co.jp/earth/>
facebook <http://www.facebook.com/earth.act>



富士山の不法投棄で埋められたごみを掘り起こして回収している様子

社会貢献活動

コスモエネルギーグループは、経営理念のひとつである「企業と社会の調和と共生」にもとづき、「未来の社会をつくる子どもたちの啓発」「地球環境の保全」「文化的社会の構築」をコンセプトとしてさまざまな社会貢献活動に取り組んでいます。

主催プログラム	活動内容	開催時期	実績	開始年
第23回 コスモわくわく探検隊	交通遺児の小学生を対象とした自然体験プログラム	8月7日～9日	・交通遺児36名 ・社員ボランティア13名	1993年
「Jazz Night @魚籃寺」 チャリティ・ジャズ コンサート	入院中の子供に付き添う家族のための宿泊施設を支援するチャリティコンサート	9月4日	・寄付金192,000円	2007年
クリスマスカード プロジェクト	入院中の子供たちにメッセージをそえるクリスマスカードを贈るプロジェクト	11月～12月	・当社から430枚提供	2003年
コスモ絵かきず	児童養護施設で実施するグループ社員による手作りワークショップ	12月19日	・養護施設児童13名 ・社員ボランティア5名	2004年
ハッピードール プロジェクト	入院中の子供たちと人形づくりをするプロジェクト	5月～10月	・7カ所の病院等で実施	2009年